

東京都離島振興計画

——島しょ町村の創意工夫を支援

東京都総務局行政部振興企画課

離島振興対策実施地域の現況

東京都の伊豆諸島地域には、豊かな海洋資源と自然環境に恵まれた九つの島がある。歴史に彩られた個性ある特産品、独自の文化など世界に誇る東京の宝島である。今般策定した「東京都離島振興計画」では、一〇年後に目指すべき姿として、上質な宿泊施設の誘致や遠隔医療・教育DXの進展、再生可能エネルギーの普及、無電柱化の推進など、伊豆諸島がより一層輝く取り組みを戦略的に掲げた。以下では、東京都離島振興計画における取り組みなどについて概説していきたい。

東京都における離島振興対策実施地域は、伊豆諸島地域の
大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八

丈町および青ヶ島村の二町六村である。東京からの距離は、約一〇〇キロメートル〜三五〇キロメートルの南方海上に連なっており、九島の有人離島とその他の無人島が点在している。有人九島の面積の合計は約三〇〇〇平方キロメートルで、特別区の半分ほどとなっている。

令和二年国勢調査における伊豆諸島の人口は二万一五三二人であり、大島町と八丈町で諸島全体の人口の約三分の二を占めている。また、青ヶ島村は「日本で一番人口が少ない自治体」として知られている。本土と伊豆諸島間には船舶が運航しており、そのうち大島、新島、神津島、三宅島および八丈島には航空機も運航している。また、「青ヶ島―八丈島―御蔵島―三宅島―大島―利島」の各区間においては、ヘリコミ

ユーザーが運航しており、住民の貴重な移動手段となっている。伊豆諸島はわが国の領海および排他的経済水域の確保において重要な役割を果たしている。この海域は、国内屈指の好漁場がもたらす水産資源はもとより、レアアース、地熱、風力発電などの新たな資源や再生可能エネルギーの開発・利用という、大きな可能性を有しており、日本の国益を維持する上で非常に重要な地域である。また、海洋・水産資源の開発、多様な文化の継承、固有の生態系保全などのさまざまな観点から、その果たすべき公益的な役割も重要性を増している。

東京都離島振興計画の概要

東京都離島振興計画は、令和四年一月に改正・延長された離島振興法第四条第一項に基づき、同五年五月に東京都が策定したものである。策定に当たっては、国が定めた「離島振興基本方針」に基づき、伊豆諸島の町村が作成した離島振興計画案の内容を、できる限り反映している。

対象期間は、離島振興法の期限に合わせて令和一四年度までの一〇年間であり、都と島しょ町村が、振興の主体となる住民・企業・NPOなどと連携し、戦略的に伊豆諸島の振興を図っていく上での基本的な方針を明らかにするものである。また、課題別に一〇年後の目指すべき姿と、その実現に向け

た取り組みなどを示している。

目指すべき姿と取組方針

伊豆諸島は、豊かな自然など魅力あふれる多くの特色を有している一方で、人口減少、少子高齢化、自然災害などのさまざまな問題や社会経済環境の変化による新たな課題を抱えている。こうした課題を解決していくためには、国・都・島しょ町村が連携していくことが重要である。都と島しょ町村がこれまで以上に緊密に連携・協力し、本計画の終了となる令和一四年度には、伊豆諸島を取り巻く多くの問題を解決し、「3つの未来」の実現に向け取り組んでいく。

3つの未来

- ① 自らのポテンシャルの最大限の発揮と創意工夫により、島しょ地域の魅力と活力が大きく向上している。
- ② 本土と島しょをつなぐ様々なインフラの整備やデジタル技術の活用により、地理的制約が克服され、島しょ地域の可能性が飛躍的に高まっている。
- ③ 新型コロナや人口減少・少子高齢化等の直面する危機を乗り越えて、持続可能な回復「サステナブル・リカバリー」を成し遂げることで、島しょ地域の発展が図られている。

その際、次に掲げる六つの方針の下に取り組みを進めていくこととしている。

- ① 道路や港湾、空港等の交通基盤の着実な整備により、交通手段が充実している利便性の高い島
- ② 高度な情報通信基盤の整備とともに、誰もがデジタル技術を活用しているスマートな島
- ③ 農業・水産業や観光産業等の活性化と新しい雇用の場が確保・創出されている島
- ④ 医療・防災対策等の充実により、安全安心な暮らしやすい島
- ⑤ 豊かな自然に恵まれた環境にやさしい島
- ⑥ 関係人口の創出による移住定住の促進と誰もが果敢に挑戦できる環境が整備され、島内外の多様な主体を引きつける人々の活力に満ちあふれている島

分野別計画

各施策分野別の一〇年後の姿や実現に向けた取り組みの一部を紹介する（二九、三〇ページ表）。なお、それぞれの現状や課題等については、東京都ホームページ「※」などで確認していただきたい。

島別基本計画

伊豆諸島の各町村が作成した離島振興計画案を基本とした各島の特徴ある振興の方向性や取り組みの一部を紹介する

（二一ページ表）。

本計画で示した方向性により伊豆諸島の持続的発展を実現していくためには、都による取り組みをより一層推進するとともに、島しょ町村が地域の実情に応じて推進する創意工夫を凝らした取り組みに対する支援が必要である。

都はこれまで、島しょ町村による行政サービスの向上、インフラ整備の推進などを図るため、離島活性化交付金などの国の交付金・補助金はもとより、都独自の交付金・補助金などを活用して島しょ町村に対する支援を実施してきた。今後とも、島しょ町村の財政状況や事業動向を踏まえた適切な対応を図り、伊豆諸島のさらなる振興を促進していく。



東京愛らんどフェア「島じまん」の様子。

分野別計画

①交通・情報通信整備

分野	10年後の姿	実現に向けた取り組み
航路	安定的かつ利便性の高い海上アクセスが確保されている	船舶等の更新に係る設備投資 など
航空路	快適性・利便性が向上し、観光客やビジネス客の利用が増え、地域の活性化に貢献している	空港建築施設の適切な維持管理・建替え、ヘリコプター機の機体更新 など
港湾	港湾施設を活用した観光振興や地元産業の振興に資する「島のみなとまちづくり」が進んでいる	定期船の就航率の向上、船客待合所等の整備 など
島内交通	島内バスなどの公共交通が確保され、住民や観光客の利便性が向上している	自動運転サービスの導入推進に向けた取り組み など
情報通信環境	「つながる東京」の実現に向け、通信困難地域の解消が進んでいる	携帯電話電波の実測調査および島しょ町村の計画策定への支援、携帯電話のアンテナ基地局の設置 など

②産業振興

分野	10年後の姿	実現に向けた取り組み
農業	担い手の確保・育成が進み、担い手不足が解消されている	研修農場等の整備および生活基盤確保への支援、農業経営の多角化の推進 など
水産業	海洋環境の変化に対応した栽培漁業・漁場整備の展開が進んでいる	新たな漁場造成手法の検討、優良な漁場の造成、試験研究機関などの機能充実、水産業のDX など
商工業	販路が拡大され、安定的な経営が行われている	インターネットやイベントなどを利用した普及活動、バイヤーとのマッチングの機会創出 など
就業促進	雇用就業情報の提供機会および媒体が増加し、島内での就業が進んでいる	アイランダーや東京愛らんどフェア「島じまん」等のイベント、移住定住相談窓口やSNS等を活用した雇用就業情報等のPR、新規就業者の受入体制の整備 など

③生活

分野	10年後の姿	実現に向けた取り組み
生活環境	各島の実情に応じた汚水処理の整備が進んでおり、水洗化率が向上している	合併浄化槽および下水道の整備や污泥再生処理センターにおける堆肥化など島内循環の推進 など
住宅	定住促進、空き地・空き家などが有効に活用されている	公営住宅の建設、空き家改修の促進、「空き家バンク」運営支援 など
医療・保健	医師や看護師等の医療従事者が安定的に確保されている	へき地勤務医師等確保事業、地域医療支援ドクター事業、へき地医療支援機構無料職業紹介事業などによる医療従事者の確保 など
福祉・介護サービス	子育て支援サービスを充実するとともに、相談支援体制を強化し、子どもと子育て家庭を地域全体で支える体制が確立されている	子ども家庭支援センターの設置と機能強化による相談支援の拡充、地域の関係機関による子どもを守る地域ネットワークづくり など
教育	基礎学力の定着が図られ、将来の島の振興を担う伊豆諸島の人材が育成されている	デジタル技術の活用、子どもたち一人一人の状況に合わせて学ぶ機会の拡充、多様な学びの場の創出 など
文化・スポーツ	島独自の文化・芸術が多くの観光客を引きつけ、スポーツイベントおよび宿泊の誘致も推進され、来島者の増加に寄与している	音楽、児童演劇、寄席等を鑑賞する機会の提供、島ならではの施設、資源を生かしたスポーツイベントの開催 など

④観光振興

10年後の姿	実現に向けた取り組み
観光客のニーズに即した情報が国内外に広く発信され、伊豆諸島の認知度がより一層向上している	情報発信ツールを多角的に活用したPR、宿泊施設の多様化、多様なアクティビティの開発 など

⑤環境

分野	10年後の姿	実現に向けた取り組み
自然環境保全	伊豆諸島独自の貴重な自然環境が保全され、その魅力が島の内外に広く浸透し、来島者が増加している	伊豆諸島の貴重な自然の魅力を広くPR、自然保護と観光利用の両立を図ったエコツーリズムの推進 など
再生可能エネルギー活用	伊豆諸島の特性を生かした再生可能エネルギーの活用が拡大し、脱炭素化を目指す「ゼロエミッションアイランド」への取り組みが進んでいる	持続可能で低炭素な自立・分散型エネルギーの普及拡大の推進、自然環境に適合したエネルギー対策の取り組み、エネルギーの地産地消の推進 など

⑥防災

分野	10年後の姿	実現に向けた取り組み
ソフト防災対策等	島しょ町村相互間および本土自治体との連携体制が構築され、被災時の孤立化を防止する仕組みが整っている	総合防災訓練や図上訓練の計画的な実施、自治体間連携の強化 など
国土保全等	地震・津波・噴火・台風に対応した災害に強い伊豆諸島を実現するため、港湾・漁港施設の整備および都道・港・空港の無電柱化などが進み、防災性が向上している	護岸、離岸堤などの海岸保全施設の整備、海岸の特性に応じた整備、無電柱化の推進 など

⑦人材確保・育成、関係人口の創出

10年後の姿	実現に向けた取り組み
農業・漁業・観光業・加工業などの多様な分野で担い手が確保され、島の振興に貢献している	就業しながら技術を習得できる研修センターの整備、各種イベントやホームページ・SNSなどの活用による島外からの人材募集、地域ぐるみでの移住者の生活支援 など

⑧魅力創出

10年後の姿	実現に向けた取り組み
各島のブランド化に向けた自立的な取り組みが展開し、東京宝島ブランドとして島しょ地域の魅力が広く認知され、外国人も含めた観光客が来訪し、特産品の購買が進むなど多様なファン層が存在している	伊豆諸島の持続的発展や特色ある宝物の発掘、魅力の創造につながる、島しょ町村の意欲的な公民共創の取り組みの支援、国際便の就航、ビジネスジェットなどの受入れに必要な環境整備 など

島別基本計画

島名	10年後の姿	目標達成への道筋
大島	伊豆大島ジオパークの活動をさらに推進し、来訪者が容易に情報を得られ、楽しめる仕組みが構築されるとともに、様々な人が有機的につながり、それぞれが新たな価値を発見する、島内周遊ツアーリズムが展開されている	ジオガイドの強化、「ジオツアー」、「教育ツアー」の造成、ジオパークの理念に基づく教育や観光資源としてのジオサイトの一層の活用推進、エコツーリズムで島の魅力をアピール など
利島	再生可能エネルギーの活用を促進するとともに、空き家活用を含めた住宅施策を推進することで定住促進を図り、持続可能な村づくりが実現されている	再生可能エネルギーと水循環設備を備えたオフグリッド型居住モジュールの島内設置による利島型サステナブル住宅の実証、今後建設予定の公共施設への循環型利用設備の導入 など
新島・式根島	中長期滞在型UIターン者用住宅が整備され、移住者が増加している	移住定住相談窓口機能の強化、オフサイト、ワーケーションなどを切り口にした企業誘致 など
神津島	島全体を星空公園として位置づけ、各種ツアーリズムの充実が図られている	「星空保護区」を新たな観光資源と位置づけることによる観光シーズンの平準化、島ならではの食や暮らしを体験する各種ツアーリズムの充実 など
三宅島	学校だけではなく、島全体で子どもの教育を行う意識が共有され、島を愛する心が育つ環境が整っている	島に対する誇りと愛着を生涯にわたって持ち続けられるような子育て支援や教育施策等の実施 など
御蔵島	資源豊かな御蔵島の特性を十分に活用した農・林・水産業及び観光業の連携が図られることにより、雇用の創出及び経済活性化に繋がっている	特産品量産のための農業体制の確立、地域の特性を生かした産業の振興、恵まれた自然環境を生かした観光の振興 など
八丈島	空路は現路線を維持し、チャーター便の誘致およびインバウンド需要に向けた取り組みの対応を行っている。海路は港湾施設の利便性向上、既存航路外の利用を視野に入れた多様な海面利用を推進している	航空路は路線や便数の維持はもとより新規路線の開拓、海路は天候に左右されにくい港湾施設の整備、定期貨客船の就航率及び利便性の向上 など
青ヶ島	太陽光発電による電力供給で令和12年のカーボンハーフを達成し、島全体の使用電力の50%をこれによりまかなっている	ディーゼルエンジンによる内燃力発電に替えた太陽光発電による再生可能エネルギーで公営施設の使用電力をカバー など



神津島村合同総合防災訓練の様相。